

PEACE BOAT

STORY

vol. **03**

【発行第3号】

FIND

yourself

ピースボート 地球一周の船旅ガイドブック

特集 PEACEFUL DAYS

あなたが“旅”する理由

今日がいつか旅にでる最初の日。



Follow me!

ちょっといいことがいっぱい！
PEACE BOATの旅の様子や
最新イベント情報をSNSで配信中！



🔍 @peaceboat.cruise



🔍 @peaceboat

Shared Discovery

このガイドブックを開いたことがその第一歩となることを、心から願っています。

發起人 Find yourself 編集部



PEACE BOAT

۱۵۸۱

FIND yourself

ピースボート 地球一周の船旅ガイドブック
Peace Boat Global Voyages Guidebook
August. 2025 No.03

CONTENTS - 今期の特集

07 Happy Sea Mail

Egypt ギザ - 大エジプト博物館がオープン

Australia シドニー・メルボルン - サステナブルな暮らし

France ニース - 海洋をめぐる課題

特集 PEACEFUL DAYS - あなたが“旅”する理由 -

08 池田親生 - Artist

Photo:Ueno Takafumi Text:Tanaka Aki

12 アーヤ藍 - Movie Explorer

Photo:Ueno Takafumi Text:Tanaka Aki

16 畠山澄子 - International Director

Photo:Ueno Takafumi, Nakaoku Takeo
Text:FIND yourself Editorial Department

20 Dear My Planet - ワイヘキ島 - Photo & Text = 宿野部 隆之

23 My Favorite Place - イスタンブール〈トルコ〉 -

Photo:Luis Barreto Text:FIND yourself Editorial Department

24 What's Peace Boat? ピースボートってどんな旅?

26 INTERVIEW 「チャンスを楽しむ」を大切に ルイス ロビン 敬

28 A PEACE BOAT PERSON



表紙の写真

目の前に広がるのは、どこまでも続く大海原。
海の上にだけ現れる“あなただけの空間”で、
時間はゆっくりと流れていきます。
潮のリズムに身をゆだね、光と風を感じる。
流れる時間は出会いによって形られ、
かけがえない旅の記憶になります。

——ここにあるのは、海の上だからこそ出会える、
特別なひとときです。

「Find yourself」地球一周の船旅ガイドブック
2025年8月25日
発行＝株式会社ジャパングレイス
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13
編集＝NGO ピースボート
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1
制作＝株式会社 明巧
アートディレクション・写真・デザイン＝上野隆文

■ 記事に関するお問い合わせ
MAIL: info@peaceboat.gr.jp
TEL: 03-3363-7561
■ 広告に関するお問い合わせ
MAIL: customer@japangrace.co.jp
TEL: 03-5287-3081

Publisher: Japan Grace Co., Ltd.
Production: Meiko Co., Ltd.
Art Direction, Photo & Design: Ueno Takafumi



「人生の次なるきっかけ」
となる、きらめきを探して

世界一周の船の上は、さまざまな人生
が交差する場所。年齢や性別、国籍、
宗教など、バックグラウンドがまるで違う
誰もが気軽に出会い、快適な旅を送り
ます。その中で生まれる交流が、あなた
の次なる人生に彩りを加えてくれます。
一生に一度の特別な体験を、ピース
ボートクルーズで。

PEACE BOAT

Since 1981



Happy Sea Mail

世界から届いた旬の話題



Egypt
ギザ



▼中に入るとそこは異世界。古王国時代から新王国時代まで、年代別にずらりと像が並び、吹き抜け階段の展示場。本物の遺跡が鎮座するその、広大な空間そのものが、静かな迫力に心を奪われます。▼見逃せないのが、ミュージアムショップ/ハイセンスな大エジプト博物館オリジナルグッズに、財布の紐がつついひまいます。

人類の叡智と最新技術 大エジプト博物館がオープン！

悠大なナイル川とともに、約3,000年もの長きにわたり存続した古代エジプト王朝。時を越えた今なお、ギザのピラミッドやルクソール遺跡群は、訪れる私たちに古代のロマンへと誘います。そんなエジプトの地にプレオープンしているのが、世界中の歴史・考古学ファン待望の「大エジプト博物館」です。ギザの三大ピラミッドを望む高台に建てられた博物館は、「第4のピラミッド」をデザインして造られた外観が特徴。入口では、空中に浮くハンギング・オペリスクが迎えてくれます。「建築王」と称えられるラメセス2世像が建つホール、大階段に並ぶ巨大な彫像の間を通り抜けて上階まで上がると、意欲的にピラミッドが佇みます。まさにエジプト史の中に飛び込んだような圧倒的な展示量と貴重性、そして最新の修復技術——注目のツタンカーメン王の展示品も出揃う、2025年後期のグランドオープンも待ちきれません！

自分にも地球に優しい ライフスタイルを実現

オーストラリアは、日本でも人気の「Jurlique（ジュリク）」や「Aesop（イソップ）」など、自然素材に特化したコスメブランドを生んだ環境先進国。特にシドニーやメルボルンなどの大都市では、「オーガニック」や「サステナブル」といった価値観が人びとの暮らしに根付いています。オーガニック農園やファーマーズマーケットも多く、その土地で採れたものを味わう「地産地消」は当たり前。プラスチックフリーを掲げた量り売りのグロサリーストアでは、持参した容器に必要な量だけ商品を入れて購入する人々もいます。また、美食の街メルボルンでは、レストランには必ずベジタリアン／ビーガンメニューが存在します。これは特別なことではなく、スタンダードな選択肢。環境や健康を意識した商品や食を通して、自分の生き方を選ぶ——そんな「自分にも地球にも優しい」ライフスタイルが彼らの日常なのです。



▼活気あふれるマーケットを歩けば、色とりどりのフルーツやオーガニック食材が並びます。新鮮な味わいとローカルフードの出会いが旅を豊かに彩ります。▼石けんや歯磨き粉、重宝ラップなど日用品が気軽に手に入るの、旅の途中で必要になってしまったものから、環境や人権に配慮された品に変わっていくのもおすすめです！



Australia
シドニー・メルボルン



France
ニース



▼2025年1月には本報/バシフィック・ワールド号にて南極観測を実施。氷に覆われた地球の果てで、参加者たちは現地の環境や生態系に直にふれ、その変化を自らの目で確かめました。専門的な知見を提供して下さった南極観光ガイド協会（IAATO）のチームからは、参加者の学びの姿勢と体験の深さに対して高い評価をいただきました。

海洋会議 UNOC3と ピースボートの挑戦

地中海のまばゆい青に包まれた「コートダジュール」——その中心都市ニースに、2025年6月、世界の注目が集まりました。第3回国連海洋会議（UNOC3）がフランスとコスタリカの共催で開催され、各国首脳を含む約1万5,000人が集結。海洋をめぐる課題と未来について議論を深める、史上最大規模の国際サミットとなりました。この会議に、NGOピースボートの代表も参加。国連の公式サイドイベント「ブルーゾーン」にて登壇し、海洋汚染や気候変動といった地球規模の課題に取り組む「SDGs ユースプログラム」の活動を紹介しました。このプログラムの中心メンバーは、すでに気候変動の影響を受けはじめている地域に暮らす若者たち。彼らは、世界各地の現場を訪れ、当事者として課題に向かい合い、学び、行動しています。「ただの観光」では終わらせない。そんな新しい旅のスタイルが、今、世界中で求められています。

SUPPORT

PBV

ピースボート
災害支援センター



人こそが 人を支援できるということ

国内外の被災地でネットワークを活かした災害支援やボランティア派遣、防災・減災への取り組みを行っています。



1 IN THE WORLD

海外では31か国以上で災害支援を実施。世界各地で自然災害が増加しており、持続可能な開発の大きな障害になっています。災害に対する脆弱性を減らし、被害を軽減していくことは国際社会の重要な課題の一つです。



2 IN JAPAN

国内では87を超える地域で災害支援に携わっています。10年間（1999-2008）で、1805の市区町村が水害・土砂災害の被害を受けており、担い手が少なく人とのつながりが弱い地域が、より深刻な影響を受けています。



誰もが、自然災害に遭遇する可能性があるので、国や地域を越えてすべての人ひとが互いに助け合える社会をつくる！

1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、大地震（台湾、トルコ、バキスタン、東日本）やハリケーン被害（米国、津波被害（スリランカ）の支援など国際ネットワークを活かし、国内外で災害支援を展開しています。

どのような災害も、一人では、家族だけでは、そして地域だけでは、対応が難しいことがあります。多様な組織やボランティアと連携して被災地の支援を実現し、災害に備えるために、防災・減災教育やボランティア育成、ネットワークづくりに取り組んでいます。自分を守り、大切な人も守る。そして少し遠くの「あの国」を支える。「お互いさま」の環が広がるように、一緒に動くための方法を提案します。

いま、あなたができること



備える・学ぶ



寄付する



参加する

PBVの活動は、皆さまの寄付によって運営されています。大規模な災害が発生すると中長期的な支援が必要となるため、継続して被災地を応援する「災害支援サポーター」を募集しています。

website: www.pbv.or.jp

日本版、世界の
“竹あかり” 熊本演出集団!

FACE THE WORLD

PEACEFUL DAYS

File - 01

池田親生 × Artist

今までの自分だったら
選ばなかった判断を
していくのいいね

大学時代、竹に穴を開け、そのなかにロウソクや電灯などの
明かりを灯す「竹あかり」の制作演出に出会った。
以来、自分の「好き」は決して崩さない。人の縁を大切に、
腕を磨き、今では、明かりで人も自分も幸せに。
チカオ流「好き」を続けるコツと、全力で取り組むワケとは。

photo: Ueno Takafumi text: Tanaka Aki



Jozenji Beer Park

仙台三蔵本館屋上に広がる幻想的な空間。Jozenji Beer Park (定禅寺ビアパーク) は、2023年のスタート以来、毎年池田さんの「竹あかり」によって演出され、訪れる人びとに非日常の時間を提供しています。さらに、Jozenji Beer Park では会場を盛り上げるパフォーマンスを公演するという独自のスタイルを取り入れており、それが池田さんの演出力と世界観と響き合い、イベント全体を一層魅力的なものにしています。こうして Jozenji Beer Park は、単なるビアガーデンにとどまらず、毎年進化を重ねる特別な文化体験の場へと高められています。

We're one team!



僕

は、世界的に有名なファッションブランド、コムデギャルソンのデザイナー、川久保さんの考え方に大きな影響を受けています。川久保さんは「日本古来の素晴らしい技術や文化を重んじないで、いずれ姿を消す、それは寂しい」とおっしゃっていて、自分もそういう想いを大切にしたい! と、衝撃を受けたことがあります。この言葉を聞いていなかったら、僕は竹あかりの仕事始めていないと思います。

竹あかりを初めて作ったのは、熊本の大学に通っていた頃です。在籍していた建築学科の研究室の先生が提唱するプロジェクト「まつり型まちづくり」の一環で制作しました。そしたら、仕上がりを見た人たちが感動してくれて、「ありがとう」と感謝までされて、自分のスキルが形になり、人の役に立ったんです。仕事の魅力とはこういうことかもと、気づいた瞬間でした。

竹あかりの企画では、日本全国を回る経験もしました。のちに CHICKEN を一緒に立ち上げた三城賢士と、自腹を切った先生に付いて行ったんです。理由は簡単。おもしろそうだったから。企画では愛知県の『愛・地球博』にも展示しました。東京の赤坂プリンスホテルでもかなり大きなものをディスプレイしました。このとき、僕らが、大工さんと職人さんとコミュニケーションを取りながら頑張っている姿を見て、赤坂



好きなことを
仕事で続けたいなら
スキルを身に付け
理想を超えないと！

会いたい人にはすぐ会いに行く
効率ではなく、素直さが大事

これまで池田さんが続けてきた「竹あかり」は、ただの光ではなく、竹そのものに新たな生命を吹き込む物語です。竹に小さな穴を穿ち、ロウソクやLEDの灯を宿すとき、その光はやわらかに照れ、見る人の心に静かな感動を呼び覚まします。「まだ誰も見たことのない演出へと昇華させたい——」その思いを胸に、ひとつの作品を作り上げながら、次の景色を思い描く。独自の表現の道には、池田さんがこれまでに重ねてきた数々の出会いと経験が、静かに、確かに息づいているようです。右側面写真：池田さん提供

プリンスの偉い役職の方に「今後何かあったら連絡しなさい」と声をかけていただいたり、「うちに就職したらいいんじゃない?」と誘われました。でも、「いや、俺らは起業するの!」とお断りしたんです(笑)。その後、「CHIKAKEN」として東京で最初に仕事をしたのは、赤坂プリンス。今でも仲良くさせてもらっています。竹あかりの活動で日本一周を終えたあとは、ピースボートのポスターを目にしたことから、今度は世界一周の旅に興味を抱きました。そして、飲食店がポスターを貼らせてもらえる船員が割引になると聞き、お店を1軒1軒回る日々を送りました。このときは、こちらの想いを伝えて交渉して達成感を味わうという、仕事において究極に大事なこと学びましたね。結局は目標の枚数を貼りきれず、ばあちゃんにお金を借りて旅に参加しました(笑)。

ピースボートの船上ではやる気満々だったのですが、バンドや応援団長を務めるなど、毎日企画に参加しました。そして船で出会った仲間を3人連れて熊本に帰り、彼らもメンバーに加え「CHIKAKEN」を始めた。

そうして、竹あかりを事業としていよいよスタートさせたのですが、初めのうちは発注が全然なくて、地元の先輩たちになぜか募り除けや引越しの作業などを頼まれました。それを喜んで引き受けていると、「なんでそんなことをするの?」と言ってくる人もいました。けれど、いいんです。声をかけてもらったことに對して全力で取り組む、「あいつら信用できるな」となり、それが次のチャンスにつながります。

自分のやりたいことを実現させたいなら、まずは人の勧めを素直に聞いて、素

しみが吸収する。このことが大事です。一見無駄なことと思うことも、着手してみるとプラスの何かは必ず出てくるから。それとは反対に、自分に効率的なものをだけを取り入れようとするのは、何か……、サブプライムだけで栄華を取っている感じ。仕事をするうえで超重要な部分を素っ飛ばして、その姿勢は僕としてはつまらないと思うんです。

CHIKAKENは、設立から今年で18年を迎えました。今ではおかげさまで、国内外の大規模なイベントにも関わらせてもらっています。自分の好きなことを続けられたのは、理想の形を作れるようスキルを磨いてきたから、という点もあります。そのうえで、求められる以上の結果を出そうという覚悟をもっとハードルを越えてきました。また、ひとりではもちろん制作はできないので、大人数の仲間と作業をするのですが、不思議と、「こいつマジでやべえ」と思うようなユニークなメンバーが集まっています(笑)。

そして、どんなでもないアシスタントが起きた末に、今まで見たことがないものが仕上がったという。人がなくさないと、思い通りにないことが当然多いです。でも、だからこそ、自分が思い描いた以上のものが生まれて感動を得られる。そのたびに興奮しますね。

人が生きていて肝心なのは、幸せかどうかだと思うんです。だから、僕は時々、自分を映画の主人公に例えて、「今の自分はカッコいい主人公か、幸せか?」と俯瞰するようにもしています。そして自分を充実させたいから、おもしろいものにはすぐふれに行き、会いたい人には会いに行く。一瞬一瞬の気持ちに、素直に生きているんです。

池田親生 Ikeda Chikao

竹あかり演出家

1982年、福岡県生まれ。2007年に三城賢士とともに「竹あかり」の演出制作・プロデュース会社「CHIKAKEN(ちかけん)」を設立。「まつり型まちづくり」の考えをベースに、竹あかりのオブジェをつくり、「人と人・人と自然」をつなぐ。その場所にしかない風景を結ぶ、環境循環する一連の作品とし、「竹あかり」が新たな日本の「文化」として受け継がれることを目指す。九州を中心に増えつつある竹あかりと呼ばれる竹を使い、あかりのオブジェ作り、それを土に還す一連の流れを作品づくりとし、その「竹あかり」が新たな日本の「文化」として受け継がれることを目指す。

資本の竹あかりのお祭りではデザイン・制作指導に携わり、伊勢志摩サミットG7の夕食会場では装飾を担当。米国ネバダ州で行われる世界一の奇祭バーニングマンにもアーティストとして招き入れられ、2019年、総務省地域創造力アドバイザーに選出。2024年著「バカになる勇氣」(ぎざ出版)を刊行。

CHIKAKEN 公式ホームページ <https://chikaken.com/>



縁があったら、
世界のどこかで
酒でも飲みながら、
一緒にバカやろう！





あなたが“旅”する理由

1st PEACEFUL DAYS



アーヤ藍 × Movie Explorer

一番遠くにあるものを 引き寄せてつなぐ



心優しい友人が住むシリアで、内戦が勃発……。この経験をきっかけに、社会問題を扱う映画の配給を始めた。途中転職を経て、フリーランスとなった今は、さまざまなジャンルの映画を選び届ける「映画探検家」として活動中。映画と旅を軸に、自分の想いを伝え続ける。



1,5：滞在していたシリア・アレッポのモスクとスーク（市場）、どちらも内戦下で破壊された。2：シリア滞在中のアラビア語のチューターだった友人と。3,4：シリア・アレッポの街中で出会った方々。6：東京都北区にある、「シネマ・チュブ・キタバタ」は、「映画のバリエーション」について初めて教わった映画館。配給会社にいた頃からのご縁で、フリーランスになってからもさまざまな形で一緒にいる。「ただいま!」と言いたくなるホームのような場所。

photos: Provided by interviewee (No.1-No.5, No.4-No.377, Jeno Takafumi (No.6) text: Tanaka Aki



16



17



15



14

人の痛みを想像できる人でありたい

の中は変わらなかった」と、世の中に恨みつらみを言いながら死にそうだと思いましたが、やりきった感もあったので、配給会社を卒業しました。先のことを決めていなかったのでフェイスブックで自分の特性やスキルなどを投稿して仕事を募集したこともあり。結果的にフリーランスになって、映像制作や教材制作、イベントの司会など想像していなかった仕事を経験できているのが嬉しいです。限られた人生だからいろいろやることに挑戦したい。そして常に初心者でありたい、と今もこの気持ちには変わりありません。

現在は、映画の配給宣伝を手伝ったり、企業や団体が主催するイベントや企画で上映する映画の提案や手配をしています。もともと旅が好きですが、最近は映画と旅がリンクして世界が一層広がっています。たとえば、第一次世界大戦後から30年間日本が委任統治していた「マリシャル諸島共和国を舞台にした映画『タリナイ』の配給宣伝を手伝った後、現地を訪ねたのですが、キラキラと輝く海や、そこに住む人たちのやさしい笑顔と裏腹に、あちこちに戦争の爪痕を感じました。

14: ジョージアのワイン文化に関するドキュメンタリー映画の上映後、大使とのトークショーにて。15: ジョージアを訪れた時に出会いの友人になったワイン醸造家と。16: 2020年から続いている大丸有 SDGs 映画祭。上映作品の選定やトークの司会などを担当。17: 銀座ソシアル映画祭さんとのコラボ上映会。会議室や公民館などさまざまなスペースが「映画館」になる。18: シネマ・チュブキ・タバでの映画「花束」公開時、サヘル・ローズ監督とのトークショー。

映画がきっかけで興味を持ち訪れた国としては、ジョージアもあります。8000年の歴史があるワインの文化がいかに大切なものか。そして周囲の大国の影響を受けてきた歴史の難しさを体感で学ぶ時間でした。逆に旅先で見つけた社会問題のかけらも、映画で構造的に理解することもあります。映画と旅の両輪が自分を育ててくれました。

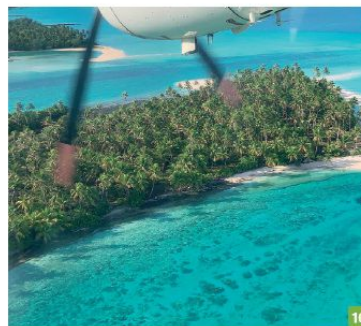
今では映画が欠かせない存在ですが、映画の仕事をしていていたわけではありません。キャリアを決めつけずに、自分の「好き」や「おもしろそう!」と思うものにトライを続けて広がってきたのが今の道です。今後も種を狭めず、映画と旅を通して自分の気づけていない世界を開拓し、誰かの痛みを想像できる感情のひだを増やしていきたいです。



アーヤ藍 Ai Ayah

映画探検家

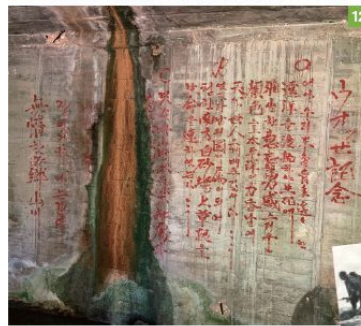
1990年生まれ、長野県出身。慶應義塾大学総合政策学部卒業。在学中にアラビア語の研修で訪れたシリアが帰国後には内戦状態になり、シリアのために何かしたいという思いから、社会問題をテーマにした映画の配給宣伝を行うユニテッドピープル株式会社に入社。同社取締役副社長を務める。2018年に独立。「映画探検家」として、映画の配給・宣伝サポート、映画イベントの企画運営、雑誌・ウェブでのコラム執筆などを行う。アーヤはシリアでもあった名前。



10



11



12



8



7



9

7: マーシャル諸島共和国のウォッチェ島を訪れた時、岸辺に集った女性たちが歌を聴いてくれた。8: ウォッチェ島を訪れた時の記録も交えて作られた映画「keememe」より。9: ウォッチェ島にあった、錆びた大砲と、破壊として運ばれたこれら新兵器の人が書き残したと思われる石碑。10: ウォッチェ島に降り立つ時に見えた美しい光景。11: 映画「タリナイ」に登場し、現地で出会った方、手にしているのは日本の委任統治時代とも関係する「アミモノ」の花。

限られた人生だから冒険したい そして、常に初心者でありたい

大

学生のときにシリアに1か月滞在していたら、私は今の仕事には就いていないかもしれない。

2019年3月、アラビア語の研修で訪れたシリアはとても穏やかな風土で、心温かな人々にたくさん出会いました。しかし、私が帰国する直前に、中東一帯の民主化運動「アラブの春」の影響を受け、現地では反政府デモが始まった。私が日本に戻った頃には内戦状態へと悪化し、シリアの友人たちはSNSに砲撃を受けた街の様子や絶望の声を上げるようになっていました。

当時、日本のメディアではほとんど報じられなかったものの、私は日本にいたけれど、シリアのことを「関係ない」とは言いたくない。かといって今の自分に何ができるのかわからずモヤモヤしたまま大学を卒業し、インターネットプロバイダー企業に入社しました。この会社では教育支援システムも開発していて、そちらに心が入ったのですが、配属はインターネットの法人営業で、やりがいを見出せずにいました。

そんななか、1本の映画に出会いました。「ザ・テイ・アフター・ピース」というタイトルで、この作品を通して、9月21日は国際平和デー（通称「ピースデー」）だと知り、「ひとりでも多くの人にピースデーを伝えたい。そうすれば、紛争状態にあるシリアに関心を寄せてくれるのでは」と、上映会を企画したのです。そのとき自分の思いを映画とともに届ける楽しさを感じ、この縁がめぐって、同作の配給元である会社に転職し、以降、同社が扱う、環境問題や人権問題、紛争などの映画を配給宣伝する仕事に取り組みようになりました。

また、当時の私は、社会問題のことを伝えなきゃ! と目くらまを立てている感じがあって、このままだと、おばあちゃんになったときに、「私めっちゃ頑張ったのに世

NEW cinema !

“見えない存在”にされてきた家族に光を。 アーヤさん配給の最新映画

アーヤさんが映画配給の「伴走者」となり、クラウドファンディングからサポートを行った映画『ふたりのまま』は、日本で「子どもを望む、または子育て中」の同性カップル4組の日常を編んだドキュメンタリー。孫の誕生を心から喜ぶ祖父母、体外受精に時間もお金も心も注いできたが、さまざまな「期限」に焦燥感を募らせるカップル、16歳の高校生を育てる家族など、さまざまな背景をもつ面々の暮らしを丁寧に映し出します。日本では、関係性を隠して暮らす同性カップルが多いという現状があるなか、カップルたちの日常を「知る」大切さを考えさせられる作品です。2025年9月20日(土)より新宿K's cinemaほか全国順次公開。

監督: 長村さと子
2025年/日本/88分



監督・撮影・編集: 長村さと子 編集: 内田虎

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子

監製: 長村さと子 監製: 長村さと子



未来のために平和の灯を掲げる人たちとともに

籍や文化的背景の異なる人たちが、お互いのちがいを認め合いながら、ともに生きてゆける社会。私がコディネートしているピースポット地球一周の旅は、そんな「多文化共生」を体現しながら旅をし、世界各地で生きた人たちの顔の見える国際交流が続いています。特にここ数年は、日本以外の出身の方も多く乗船されるようになり、船内の景色は格段に豊かになったと思います。企画する側からすると、言語面はもちろん、笑っちゃうくらいに大変なこともありますが、「どうすれば理解できるか、一緒に楽しめるか」をスタッフたちで建設的に考えていく過程は、本質的に「理解し得ないものは区別や排除するしかない」という風潮があります。人によって、楽しいことを共有できれば、わかりあえるし友だちになれる。それが船で実践されているのは、すごい希望だなと思っています。

ピースポットの取り組みも、さらに国際的なものへと広がりを見せています。特に、ピースポットが国際連帯団体として参加した2017年にノーベル平和賞を受賞したICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)、そして2024年に同じく平和賞を受賞した日本被団協(日本原子爆弾被害者団体協議会)の皆さんとともに歩んだ道のりは、創設時に「過去の戦争を見つめ、未来の平和をつくる」という理念を掲げた私たちに、とってとても意義深いものでした。昨年、ノルウェーのオスロで開催された授賞式では、平和の灯を掲げるトーチパレードも行われ、私も被爆者の方たちとともに参加させていただき、特別な時間を過ごすことができました。

被爆者の方たちとの出会いは、2008年に通訳ボランティアとしてピースポットに初乗船したときでした。そのクルーズ



あなたが“旅”する理由

PEACEFUL DAYS



畠山澄子 × International Director

ともに歩きたい、“ちがい”を超えた先にある道を

自分を縛るものをほどいたら、そこにあったのは教科書では学べなかった多様な豊かな世界。今日も明日も、世界中の仲間とともに、あたたかなつながりをつくっていききたい。



- 1: 2025年8月、世界一周クルーズに乗船する仲間たち
- 2: 2024年12月、ノーベルウィーク、ノーベル平和賞を授け、オスロ市民たちとトーチパレードへ、先頭は「日本被団協」の被爆者の方々
- 3: ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)事務局のスージーさんとオスロで再会
- 4: オスロでのキャンドルライト 5: 世界各地で、通訳として被爆者の思いを伝える役割を担わせてもらった

photo: Hono Takafumi(No.1), Nakaoka Takao(No.2-4), Provided by interviewee(No.5) text: Find yourself Editorial Department

PEACE BOAT

ピースボート

世界一周

U29 限定プラン

29歳以下、20%OFF
 思っているより
 世界は近い!!!
 THE WORLD IS CLOSE

出航時 29 歳以下限定、募集中のどのクルーズでも、対象クラス※の旅行代金が 20% オフになる「U29 限定プラン」をご用意しています。

期間限定の早得割引を使えば、さらにお得に！ピースボートで、たくさんの出会いと絶景が待つ、世界をめぐる船旅へ。

※フレンドリータイプ、3～4 人相部屋



島山澄子 Hatakeyama Sumiko

NGO ピースボート 共同代表。

埼玉県生まれ、第 63 回クルーズ（2008 年出航）に通訳ボランティアとして初乗船。大学進学・卒業を経て、再び乗船を重ねながら、世界中の人びとをつなぐ活動に携わっている。

耳を傾け、うなずき、笑い合う
 旅で紡がれるかけがえのない時間



では「ヒバクシャ地球一周証言の航海 ※」という、100 人の被爆者とともに旅をするプロジェクトを実施していました。被爆証言会で通訳を務めたことがきっかけでたくさんの時間を共有させていただき、すこ可愛がってもらいました。そんな「船友」のような存在の方たちが、一方で証言会をしたり、人によってはもう何十年も被爆者運動や核廃絶運動を続けてきたという事実。勉強でも仕事でもなく、自分。という存在を超えて、これからの未来のために人生を懸けている被爆者の方たちと出会えたこと。それは私にとって、とても大きな意味をもつ出来事でした。思えば、学生時代はいろんな思い込みに縛られていました。考えるのは勉強やテストのことばかり。そんな毎日だんだんと閉塞感を覚え、大学受験を回避したいという思いもあつてついに高校を辞めて海を渡りました。入学したイタリアの高校では、約 80 か国から来た子たちと一緒に学びましたが、ユニークな経歴をもつ子も多くて、他のことはできないけど、何かひとつで、他のことではある子たちの中で過こ

していると、オール5 を目指すような考え方でもおもしろくないなって思えてきたんです。多様な在り方が尊重される環境の中で、自らを縛る思い込みを少しずつ解いていった気がします。ピースボートの船内でもまさに多様な空間。日本語教室をやっているも、韓国とタイの方が、私の教えた日本語で「お名前は？」と聞きながら、一生懸命友だちになろうとしているんです。言葉が通じなくても、完璧に理解できなくても共存できるという事実は、すこくパワフルなメッセージ。国と国との関係性を超えて、目の前に広がるこの光景は誇らしいなって、私は結構純粋に、そう思っています。

※広島・長崎の被爆者とともに、船旅を通じて世界各地で原爆被害の証言をおこなうプロジェクト。世界中の被爆者や戦争被害者とも連帯しながら、核廃絶のメッセージを届けています。





Dear My Planet

旅を愛し、地球の美しさを伝えてくれる人たち。



Waiheke Island 【ワイヘキ島】

美しい一瞬に出会う

それは旅に出るのに

十分な動機だ

*That one beautiful moment is
enough reason to travel*

「フラインダーの向こうに見えたワイヘキ島の時間」
ワイヘキ島。オークランドからフェリーに乗って僅
か35分で辿り着く島で、私は多くの写真を撮った。
犬たちがリードなしで自由に走り回るバーム
ビーチの浜辺では、若者たちが船出の準備をしてい
た。ボートには「Ponui」(Pakapaka) マオリ語だろう
か。船体に刻まれた名前が、この島の歴史を物
語っているような気がした。
ひとりの青年が膝まで海に浸かりながら、仲間
のヨットを沖へ押し出している。その表情は真剣
で、何十年後、今はまだあどけない青年がまた次の
世代にこの島と海の事を伝えていくのだろうかと思
った。穏やかな海はそれを歓迎しているかのよう
だった。
旅において大切なのは、劇的な瞬間だけではない。
こうした何気ない光景の中にこそ、その土地の
本質が宿っている。シャッターを切る。青い海、白
い帆、若者たち。それがフレームに収まった時、私
はこの島の時間を一瞬だけ切り取ったような気が
した。ここへ来られる人生で良かったと思った。

フォトグラファー 宿野部 隆之

1977年岩手県生まれ、青森県育ち。ソーワルド株式会社所属。
宮城県の大学卒業後上京。お笑い芸人（トリオ / コント）として活動
した後、住宅設備機器メーカーに就職。東日本大震災をきっかけに
フォトグラファーに。
現在は東京を拠点に分野を問わずさまざまな撮影を行っている。
<https://socialgoodphotography.com/>



Istanbul : Turkey

写真・Luis Barreto 文・FIND yourself Editorial Department



多種多様なケバブ



肉や魚をさまざまな方法で調理した中東の伝統的な料理。本場では使う食材も調理法も地域ごとに異なり、中にはヨーグルトを添えるものまで、実に多彩で興味深い。食文化の中心・イスタンブールには、各地のケバブが集まり味わうことができる。

アイス・バクラヴァ



トルコの伝統菓子バクラヴァに粘りのあるトルコアイスを添えた人気のデザート。ナッツを挟んだサクサクの生地に甘いシロップが染み込み、そこに冷たいトルコアイスが絶妙に重なる。とろける甘さと香ばしさのコントラストが魅力の国民的スイーツだ。



エッセイ大賞 募集テーマ

「旅と平和」

旅の先にある未来へ

うちを離れて、旅をする。するとその旅路に、あなただけが見たストーリーが生まれます。多くのことはスエズボでカンタンに見られる時代。あらゆるモノや情報が国境を超えて手に入るけど、旅をして、その土地を感じ、人と出会うことで感じた「感情」は唯一無二なあのフィルターもかかっていないあなただけのもの。その発見や驚きが原体験となり、世界はひらいていきます。

でも、どれも旅を楽しむ美しい風景や生活にふれることができるのは平和という前提があってこそ。あなただけの「旅」の体験と、そこから得た「平和」への想いを打ち寄せていきます。

詳しくは「旅と平和エッセイ大賞」で検索



PEACE BOAT

大賞副賞 地球一周船旅乗船券 主催：NGO ビースポート 提供：株式会社シャングレイス

1

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
発見できる

たくさん国を訪れることができるのが、世界一周の醍醐味。ヨーロッパも南太平洋の島々も、南北アメリカ大陸も一度のクルーズで訪れることができます。今まで聞いたことがなかった名前の国だけと、行ってみたい場所だったなんてラッキーな経験も。「また行きたい国」を発見できる楽しみがあるのも船旅ならではの魅力。



2

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
ひとりでも安心

ひとりでも大きなバックパックを背負って、移動していくのはトラブルが心配...と躊躇している人も、船旅なら大きな荷物は船に置けばOK。国についたら自分の船室から必要なものだけ持って出かけるだけ！入出国手続きも旅行会社が一括で行ってくれるので、長い列に並んでの手続きや審査が少ないのもうれしいポイント。



3

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
リーズナブル

クルーズ代金には、全日程分の各国への移動費、食事や宿泊費、船内で行われるイベントの代金（一部有料あり）などがすべて含まれています。各寄港地でも「オプションツアー（有料）」を選択すれば、わざわざ現地でタクシーと交渉する手間も省けて、その土地の世界遺産や魅力的なスポットを余すことなく訪れることができます。



4

Good point of PEACE BOAT
ピースボートでは、
チャンス！

仕事や学校が忙しく、自由な時間が持てず、新しいことに挑戦できなかったりするのがいまの若者のリアル。船では旅の自由な時間の中で、環境・文化・教育など世界各国の第一線で活躍している専門家のレクチャーや、英会話・ダンス・絵画などのさまざまなカルチャースクールに参加するなど、新たなことに挑戦するきっかけがたくさん！



旅をもっと、おもしろく

「世界とつながる旅」
ってどういうこと？
「地球一周の船旅」
ってどんな旅？

知っておきたい
8つのポイントを
紹介します。

5

Good point of PEACE BOAT
ピースボートでは、
リフレッシュ

思い切って住み慣れた日本を離れてみると、異文化とのふれあいで疲れた心がリフレッシュされたり、「旅」という普段の生活とは別の時間軸を生きてみることで、いつもとちがう自分に会えたりするのも魅力です。世界の広さを体感し、新たな視点を得たことで「自分の人生を真剣に考えるようになった」なんて声もよく耳にします。



6

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
ダイバーシティ

ピースボートの船旅には、1歳の子供も連れて参加する家族や10代・20代、シニア世代では90歳を超える方まで、幅広い世代が全国から乗船しています。海外からの参加者も多く、さまざまな文化圏、バックグラウンドを持つ人びとの人生が交差する場所です。多様な価値観を認め合い、ともに旅をする隣人・友人として過ごします。



7

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
活動の場

クルーズでは、大型客船の特性を活かし世界各地にさまざまな支援物資を届けたり、現地のNGOと協力してその地域のビーチクリーンアップや固有種の植林活動など、実際に行動できるツアーに参加できます。また、全国5か所にあるピースボートセンターではボランティア活動にたずさわること、乗船費の一部が免除される取り組みもあります。日本でも、世界でも、自分の興味の範囲で社会貢献できる場があります。



8

Good point of PEACE BOAT
ピースボートは、
サステナブル

地球誕生46億年の中でつくられた大自然が魅惑する景色。いつでも船が来るのを温かく迎えてくれる人びと、そして私たちをつなぐ美しい海。旅行によってかけがえのない現地の環境や文化を消費することがないように、旅行者が多様性を理解し、訪れることで、よりよい未来への架け橋となる存在と捉え、責任ある観光に取り組んでいます。



What's Peace Boat?

旅をもっと、おもしろく

ピースボートってどんな旅？

Point
1-8

ピースボートクルーズでは、多くの出会いの中で現地の人たちとともに考え、相互理解を深めていく、その「つながり」を大切にしています。船で各地を旅する私たちだけでなく、そこで待つ現地の人たちにとっても、世界を旅する私たちとの出会いは驚きと発見があることでしょう。



世界各地に顔の見えるつながりをつくるピースボートの旅

世界とつなげる、世界とつながる

これまでに100回を超えるクルーズを実施し、アジア・オセアニア・南太平洋など世界200を超える港を訪問してきたピースボートクルーズの1回目の航海は1983年。長年のクルーズ運営の経験から、誰もが1度は行ってみたいと思うような、世界遺産や大自然との出会い、また、その地域に暮らす人びとと皆さんが、直接顔の見える交流ができる旅をつくり続けています。これまでに9万人が乗船し、世界一周の夢を実現してきました。さまざまな方が乗船しているピースボート

クルーズには、世代や国籍を越えた新たな出会いが待っています。そして、世界を訪れる私たちとの出会いは、現地で待つ人にとっても発見や驚きとなり、船旅を通じて国と国との利害関係を越えた人びとのつながりとなっています。



旅の舞台は、世界をめぐる大型客船
100日以上の世界一周の旅で、家の代わりとなる「船」。
ストレスを感じさせない旅の工夫が施された日本仕様の船で大海原へと出発します。



ルイス ロビン敬
(るいす ろびん たくし)
世界銀行や UNDP (国連開発計画) の
コンサルタントなど、これまでに 20 か国
以上の国際機関、社会的企業などで活動。
日本初の 無料 給水プラットフォーム
「mymizu」の共同創設者。

どんなことも、
“Be serious” ではなく
“Be fun, be creative” を
大事にしたい。(ロビン)

市塚 その間に、一般社団法人も作っただけですね。
ロビン そうです。自分でも何かをスタートさせたくて、プロジェクトのひとつとして、福島県相馬市から青森県八戸市までの道を、なぐ、みちの湖風トレイルをひたひたまで歩くことを始めました。その道中に出会った人から聞いた震災の話や地域のことを、文章にしてネットで発信したところ、海外のメディアでたくさん取り上げていただいて、さらに世界銀行の方の目にも止まったことが縁で、今度は世界銀行で働くことになったんです。日本の防災の知識や技術を、主に途上国にシェアする事業に関わりました。予想もなかった展開

会に感謝する時間をもてます。最高の日々を過ごせたので、通訳ボランティアの期間が終わったあとは、この先どうしようかと悩みました。そうしたら、ピースボートの災害支援の団体から連絡をいただいて、ニューヨークで起きたハリケーン・サンディの現地にボランティアスタッフとして行くことになったんです。そこで4か月間活動したあとは、ネパールやモザンビーク、バヌアツなどで5年ほど国際開発に携わりました。

市塚 次にトライしていて、すごい！
ロビン 僕は16歳ぐらいの頃からずっと社会貢献に興味をもってきたので、それが今実現できていても嬉しいです。そのきっかけくれたのは、まさにピースボート。ピースボートのボランティアに携わって以降は、何か機会をいただきたに「イエス」と言っていて進んできました。だから、今の僕がある。これからは、どんなことも Be serious ではなく Be fun, be creative を大事にして、ポジティブに活動していきたいです！

市塚 現在、力を入れている事業は何ですか？
ロビン ひとつめは、給水アプリ「mymizu」です。「ボトルを持参すれば無料で給水できるスポット」とユーザーをつなぐアプリで、ペットボトルの消費量の削減と、環境問題に関わる人を増やすことをミッションにしています。それから、教育事業にも取り組んでいます。今後は、社会起業家やソーシャルアクティビストを育てる学校を作りたいと思っています。

開でしたね(笑)。



「チャンスを楽しむ」を大切に ルイスロビン敬

一般社団法人 Social Innovation Japan 代表理事

語学ができると世界はもっと身近になる。
コミュニケーションの幅が広がる先に、見つかるもの。

INTERVIEW



ルイスロビン敬さん、2012年に地球一周の船旅に通訳ボランティアとして参加。この経験きっかけに、次々と新しいことに挑戦し、現在は社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。当時、通訳ボランティアの責任者としてロビンさんと一緒に乗船した、ピースボート国際部の市塚藍子がお届けします！

市塚 ロビンは、2012年夏の地球一周の船旅に通訳ボランティアで参加してくれましたね。

ロビン はい。もともとは、2011年3月にピースボートの災害支援に興味をもったんです。イギリスの大学を卒業する時期に東日本大震災が起きて、祖父が宮城県仙台市に住んでいたこともあったので、東北の人たちの役に立ちたいと思いました。それでインターネットで調べたところ、ピースボートでボランティアを募集している情報を得て、石巻市で支援のお手伝いを始めました。そして、ピースボートには実はクルーズがあったので、船旅で通訳ボランティアを求めていると聞いて、すぐに、チャレンジしよう！と決めました。

市塚 その後、面接を受けて採用された、と。
ロビン そうです。まずは日本の外資系企業で1年間働いて、日本語のスキルを上げてから面接に挑みました。ただ、筆記試験が難しくくて……。これは落ちたなと思ったのですが、奇跡的に合格でした(笑)。通訳ボランティアを務めるのは、刺激だらけでしたね。若い人から年輩の方までさまざまな人と交流して、寄港地では各地の様子を見聞きして、そのたびに意欲的な気持ちになりました。

市塚 船のなかでの生活はどうでしたか？
ロビン 今の時代は、普通に暮らしていると、携帯電話にメールの通知が頻りに届いたりして気持ちが悪くなかなか休まないですよ。でも、船上ではそういうことがなく、景色や出

Global English Training

船と寄港地で「学んで使う」を繰り返すことで、
語学力はアップします！



市塚藍子
ピースボートクルーズ
における通訳ボラン
ティアの責任者として、
年間大勢のボラン
ティア通訳を世界へ送り
出している。

ピースボートクルーズには、世界一周の船旅をしながら英語が学べる語学レッスン『GET (Global English Training)』があります。このレッスンは、まさに「グローバル・イングリッシュ」にふれられる機会、プログラムには有料と無料があり、有料の場合はレベル別・少人数制でのレッスンが受けられます。オリジナルテキストを使用し、わからないことはその場で質問できるので安心です。

世界の多様な文化を題材にしたレッスンで、異文化への理解も向上！地球全体がキャンパスという、新しい語学留学スタイルです。

世界一周 Around the Globe × Language Study

英語の勉強をする際、「ネイティブスピーカーのようにしゃべれるようになりたい」と思う人は多いかもしれません。けれど、世界には、ネイティブスピーカーの人口をはるかに超える人たちが日々英語を使って生活しています。つまり、各地域で使われる英語にはそれぞれ独特の特徴があるのです。これらは多様な英語の存在を、ピースボートでは「グローバル・イングリッシュ」と呼んでいます。英会話力に自信をもてない人は、まず柔軟な発想をもって「グローバル・イングリッシュ」を身につけるといいのではないのでしょうか。



First Voyage - 18 (age)

Navigator

好きをとことん、
つらぬく。

船がつなく、私の夢

小さい頃から船が好きでした。特に帆船が大好きで、神戸港で帆船を見て「この船を動かしたい」と思ったのが夢の始まり。そこから航海士という夢を追いかけてきました。ピースボートに乗ったのも、旅がしたいというよりも「世界一周をする客船が見られる!」という、周りとはちょっと違う理由でした(笑)

夢だった航海士になり教官として学生に教える立場も経験し、実は少し夢のカチが変わったんです。船上に乗りながらいろんな人と関わりたいそんな気持ちで働くようになったのは、ベースポートでのさまざまな出会いがベースになっていると思います。いつかスキルアップして船長になり、自分の手で船を操縦して世界一周する。それが次の夢ですね。

独立行政法人 海技教育機構
<https://www.imets.ac.jp>

船員養成のための学科教育と練習船による航海訓練を通じた一貫教育を実施し、船で働くプロを育てる日本最大の船員教育機関。全国各地に技術学校がある。



First Voyage - 21 (age)

Photographer

偶然見つけ、大事に
育てた「得意」なこと。

写真をとおして
人と人が笑顔になれる

世界一周クルーズの思い出を写真に残したいと、一眼レフを買って乗船。その旅中ではプロフォトグラファーの方に出会ったことがフォトグラファーへの第一歩となりました。経験を積みフリーランスとして働く中で、西日本豪雨の被災現場でボランティアの方たちを撮影する機会があり、その経験が写真を通じて社会課題の解決を目指すボランティアプロジェクトへとつながりました。コロナ禍で撮影の仕事がなくなり、それなら自分が起業して同じ思いをもつフォトグラファーたちと協同したいと会社を立ち上げました。災害に限らず、多様な支援に取り組むNPOの活動など、身近なところで社会の役にたてるように写真を通じて表現できないか。同じ気持ちの仲間と、共に進んでいきたいです。

ソー写ルグッド株式会社
<https://socialgoodphotography.com>

「社会をより良くしようとする人たちの活動」を写真で表現することをテーマに、写真撮影や映像の企画制作を中心に事業を展開している。



First Voyage - 21 (age)

Wedding Planner

世の中の「ふつう」は「ふつう」なのか？

ずっと探していた、
「自分らしくいられる場所」

もともと環境や食に関心があり、帰国後はオーガニックカフェで働きました。マネージャーも任され充実した日々でしたが、自分のセクシャリティのことでは、初めて少し悪い悩むことも。転機は30歳のとき、初めて職場の仲間達に自分のことを伝える機会があり、それだけが受け止めてはくれませんでした。以前は自分の人生を自分で描き苦しんでたけれど、いまは僕なんだと思えてくる。若い人たちの希望やロールモデルになれたらと「LGBTQの結婚を仕事にしたい」と思うように。コンボアあきさの出身地として、修行期間を経てフリーのウェディングプランナーになりました。自分が行動することで社会がより良い方向に回っていく、それが僕にできることだと思っています。

Revolvo(レボルボ)
<https://www.revolvo-wedding.com>

「世の中の“ふつう”は変えていける」をコンセプトに結婚式のプロデュースを行う。社名とロゴには「変化を起こす・ぐるぐる回る」という意味を込めている。

結婚式を「過去と未来をつなぐ通過点」と捉え、LGBTQの人を含む誰もが自分の人生を生きられる社会を目指す。



世界を旅した若者たちの
“Next Step”は山あり谷あり。

だけど、それを楽しめる“コツ”を、
みんなはビースポットで知りました。



そこ。私。私のことを知る人が誰ひもない、という不思議な場所。不思議な場所。

広い海を航海し、次の港に着けば、そこは「私」のことを知る人が誰ひとりいない、という不思議な場所。人見知りという人でも、町行く人に道を問うるのとは、このおかげかもしれません。日本を出発するときは、「一人旅だ」と意気込んでいたのに、帰国する時には日本中に世界中に「また会おう」と約束した友だちがいる楽しさは、なるべく周りに迷惑をかけずに生きたいと言っていた人に、自分の夢を語りだすきっかけをあたえたのかもしれません。

ピースボートの船旅には、自分が得た未来を描き、語り合える自由な空間、実行する「めづり」のチャンスであること、カタチが崩れ、グローバルな世界を対等にみめ選択が広がるのは、多様性にあふれる世界のリアリティを目の当たりにするから。日常の空気の中でもがいた日々は見つけられなかった、自分らしく生きる方法は、意外と「旅」という非日常の中で見つかります。

ピースボートの旅の終わりは、新しい人生の扉をあける、はじまり、でもありまふ。100日間の世界一周をして、ありのままの自分を少しだけ好きになれた人、自分やりたいことを見つけて、挑戦してみることになった人。思いきって世界に羽ばたいた人…

たくさんの人たちがこから、Next Stepへと踏み出しています。



右：イスラム文化と西洋文化が混ざり合い、魅力的な街並みがつくられているモロッコ・シャウエン。中：SDGs公式キャンペーン船であるピースボートクルーズだからそのグローバルな学びにあふれた船内。左：グアテマラ・ブエルトケツアルの港にあるマーケットでの出会い。差し入れの物に話が広がる。



VARIETY OF PLANS

バリエーション豊かなクルーズプラン

クルーズで訪れる全ての寄港地を実際にスタッフが訪れ、旅のプランを企画しています。多彩な航路で、あなたの夢を詰め込んだ世界一周の旅をサポートします。



ピースボートクルーズの出航は、1年に3度。1983年に出版した第1回の船旅から数え、これまでに100回を超えるクルーズを実施してきた経験と、それとともに築いてきた世界中のネットワークをフル活用しながら旅のコーディネートをしています。世界各地、どの土地も、それぞれの魅力にあふれていますが、春・夏・冬とその土地のベストシーズンだからこそ出会えるハイライトをめざして指針を取ります。春出航のクルーズでは、雪解けの陽光からめく北欧とアラスカへ。夏出航のクルーズでは秋の地中海とオーロラが夜空を彩るアイスランドへ。冬出航のクルーズでは、夏本番の南半球をめぐる旅です。まるで絵本の世界から抜け出たかのような美しい街並みや、人類の叡智が詰まった世界遺産の数々、そして、壮大なスケールで迫り来る大自然——その時期ならではの地球が見せる絶景や人類が刻んできた

冬出航 Winter Travels

冬の日本を抜け出し、南十字星が瞬く真夏の南半球をめぐる旅

日本から距離的に遠く、アクセスの方法も限られている南半球の各地を一度にめぐれる船旅へ。野生動物が闊歩するサファリや南米大陸の南端に広がるパタゴニアの原風景など、北半球を中心にした旅とは一味異なるクルーズが楽しめます。



夏出航 Summer Travels

地球の織りなす色彩美の世界と、憧れの世界遺産の数々をめぐる旅

夏出航のクルーズの魅力は、その季節にだけ見ることが出来る色彩美との出会いにあります。北欧アイスランドの夜空を彩るオーロラは、地球が織りなす芸術です。そして、人類の歩みを知らせる世界遺産の数々が、旅に彩りを加えます。



春出航 Spring Travels

初夏限定で味わえる、北半球・雪解けの大自然が待っています

春から夏にかけては船旅のベストシーズン。陽光輝く初夏の地中海をめぐる、人気の北欧に寄港します。ハイライトとなるのは、悠々の時が創り上げたフィヨルドの壮大な景観。そして、ヨーロッパを中心に世界遺産の数々を訪れます。



た軌跡の数々との出会いは、どれも最高の思い出となることでしょう。ピースボートクルーズなら、ではといるのが、初めて訪れる世界各地にも、あなたの訪れを待っていてくれる現地に暮らす人びとがいるということ。顔の見える交流を通して互いの理解を深める体験は、国際社会と私たちの生活の関わりについて、改めて考えるきっかけにもなります。環境先進国の取り組みを現地で学んだり、地雪撤去の現場を観察したり、マングローブの植林やビーチの清掃をしたり、持続可能な未来について考えるさまざまな寄港地プログラムも私たちの船旅の大きな特色です。点と点で存在していた憧れの場所を線で結びながら、通か4万kmの地球をめぐる旅でもあります。幾多の出会いと発見があなたの可能性を無限に広げる、100日間の船旅です。

旅行企画・実施
株式会社ジャパングレイス (観光庁長官登録旅行業 第617号)
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13
www.japangrace.com

一般社団法人日本旅行業協会正会員
旅行業公正取引協議会会員

coordinated by

ピースボート 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1
TEL: 03-3363-7561 / FAX: 03-3363-7562 www.peaceboat.org

●PHOTO: PEACEBOAT, PBV, 鎌倉美穂, 片岡和志, 千賀健史, 水本俊也, 法木志保, 吉田タイスケ, ソーワグッド株式会社, Luis Barreto, Adobe Stock, Getty Images, Shutterstock.com



世界一周について・ボランティア・割引制度など

LINE@で
直接聞いてみよう!

ピースボート公式LINEから、最新情報をお知らせします! スタッフに直接質問することもできます。



今すぐアクセス!

「ボランティア説明会」を開催中!

ピースボートの拠点は全国5ヶ所。活動内容やかわり方などをご紹介。個別のご質問にお答えする時間もあります。



世界一周がもっとわかる!

「船旅説明会」を開催中!

日本全国の会場にスタッフがお伺いし、出発までの準備から、船内生活や寄港地での楽しみ方までをご紹介します!

